

1 全体計画

学校の教育目標

・自ら考え 正しく判断し 実践できる人 ・自他を大切にし 社会に貢献できる人 ・健やかで 人間性豊かな人

平成30年度学校経営方針

★各教科を基本とした確かな学力を培う教育の推進 ★生命を大切にし、人権を尊重する教育の推進
★地域の人材を活用した教育の推進 ★健全育成・自立を促し、社会性・生きる力を育む教育の推進

本校の捉える「確かな学力」★基礎・基本の徹底 「分かる授業」、「工夫された授業」、「一人一人を大切にしたい、きめ細かな授業」を実践する

★学習指導の改善・充実 自ら進んで学習できる環境を整え、体験的な学習や問題解決的な学習を取り入れた学習指導を行う ★評価計画の改善 各教科の評価規準・基準を常に見直し、よりよい評価を追究し、その評価から生徒一人一人のもつよい面を伸ばす

平成30年度の指導の重点

- <各教科> ・各教科のミニマムスタンダード（最低限到達目標）を定め、生徒一人ひとりに基礎・基本の定着を図り、**思考力・判断力・表現力等の育成を重視し、主体的・対話的で深い学びを充実させる**
・生徒一人ひとりの個性を生かし意欲や能力の伸長を図り、学力向上を目指す
- <総合的な学習の時間> ・「命を探る」のテーマの下、主体的に課題を設定し、広い視野のもと多面的に追究する個人研究を通して、よりよい生き方に役立てようとする意欲や能力を育み、**生きる力を育成する教育を推進する**
・**人権に関する学習、読書を通じた学習、言語活動の学習等により**、自らの課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、問題を解決する実践的態度を育む
- <生活指導> ・社会の一員として社会生活のルールを守る態度を養い、自他を思いやる心豊かな生徒の育成を図る
・心身の健康・安全や礼儀正しさ等の基本的な生活習慣・規範意識の一層の定着を図る
- <道徳> ・教育活動全体を通して、生命尊重・人間尊重の精神を基盤に、人間としてあるべき姿を知らせ、社会人としてたくましく生きる力を育成する
・3年間を見通した指導計画に基づいて道徳授業の時数確保と充実を図り、保護者や地域との連携のもと、道徳実践力の育成を目指す
・**「特別の教科 道徳」の実施を見据えた指導計画を作成し、授業内容の充実を図るとともに、規範意識や思いやりの心など豊かな心を育む**
- <進路指導> ・3年間を見通した進路指導計画をさらに充実させ、将来を見通した学習や生活をするための指導・援助を行う
・自己理解を深めさせ主体的に適した進路を選択し、自己実現を図る能力・態度を育成する
- <特別活動> ・学級・学年・生徒会等の活動を通して、集団の一員としての自覚を高め、自主的、自発的に活動する態度を育成するとともに、愛校心を培う
・学校行事を通して、協力する喜びと達成感や成就感を味わわせ、心豊かで明るく秩序ある生活を築こうとする意欲・態度を育てる

授業改善の視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	評価の工夫	校内研究・研修の工夫	家庭・地域との連携の工夫
◎生徒理解に立った指導方法・評価方法の工夫を行う (単元ごとの評価など) ◎質問教室・長期休業中の補充学習などを行い、基礎学力の定着を図る ◎くり返しの学習を行う	◎学習指導要領の完全実施 ◎年間指導時数の確保 ◎ チャイムと共に授業を開始し、授業時間を確実に確保する ◎定期試験前に学習タイムを設け、学習の整理確認を行わせる	◎ 単元ごとに評価を行い、指導と評価の一体化を図り、生徒の学習意欲の向上を期す ◎外部評価を行い、保護者・生徒・学校評議員の意見を生かす	◎研修会を通して学力向上についてテーマをもち、研究及び研修を実施し、各教科に反映させる ◎きめ細かな評価・評定の方法を共通認識の上で実践する	◎保護者会や公開授業を行い、学校に関心を持ってもらい、実態を知らせる ◎道徳や授業に保護者や地域の方の参加を頂く ◎地域の畑や職場等を用いた総合的な学習の時間で活用する

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

国語科の重点

- 生徒の発達段階に応じて、学習活動を充実させる。また、言語活動等を充実することで表現がきちんとできる生徒・感性豊かな生徒の育成を図る。

	話す ・聞く力	書く力	読む力	言語についての 知識・理解・技能
1年生	70.8	81.0	75.9	73.0
2年生	88.6	89.4	83.7	74.8
3年生	92.3	90.2	78.3	79.0

(平成30年 中野区学力にかかわる調査の結果より)

現状分析 (成果と課題)	
分析内容	
1年	- 文章の読み取りには意欲的に取り組んでいる。しかし、自分の意見を文章にすることを苦手とする生徒が多い。 「書く力」は、授業中の要点整理などを通して上がってきている。対して、人前でスピーチや発表をすることを嫌がる生徒が多い。 - 漢字や文法など言語に関する知識は、個人差が大きい。漢字テストに必死に取り組む生徒もいれば、あきらめてしまっている生徒もいる。
2年	- 説明文や小説の読み取りは能力が高い。授業に対しては意欲的で力のある生徒が多いが、昨年度に比べて個人差が開くようになってきた。 - 話す力聞く力においては、特にスピーチを苦手とする生徒が多く、台本を棒読みしてしまう。 - 書く力では自身の伝えたいことを言葉にまとめられない生徒が多い。これは、語彙力の少なさが原因であると考えられる。一方、言語についての知識、理解、技能は、小学校で習う漢字も覚えきれていなかったり、文法事項を理解できていない生徒が残っている。
3年	- 意欲的に学習や課題に取り組む生徒が多い。しかし、苦手意識のある「書く」や「漢字」「文法事項」に対する抵抗は強い。 - 読む力に関して苦手意識はあまりないが、力が不足している部分でもある。特に説明的文章を苦手としている生徒が多い。 - 書く力では、字数に合わせて書けるようになっていくが、個人差がみえる。文法事項や、漢字の能力、語彙力も引き続き身につけさせる必要がある。

授業改善プラン		
指導上の課題		改善案
- 文章の読み取りや要約は全体として出来ているが、それに対する自分の意見を考え、表現できるようにさせなければならない。 - 対話する力、人前で話す力を身に付けさせたい。 - 授業時間でまかないきれない言語知識の習得のためには、生徒全員に家庭学習の習慣を身に付けさせなければならない。	→	- 表現するための語彙力を増やし、授業の中で自分の意見を書かせたり、グループで意見交換をさせたり、全体に向けて発表させたりしていく。 - 週に1度の漢字テストに加え、繰り返し学習させるための「まとめテスト」や「漢字書き取りコンクール」を実施し、定着を図る。 - 家庭学習の課題なども工夫をして、きめ細かく個々の生徒のつまづきを把握し、支援していく。
- 話す力聞く力だけでなく、不足している対話の力を高めたい。 - 書く力では状況に応じて物事を書けることの大切さを学ばせる必要がある。 - 漢字や文法等の学習については、コンテストや日々の帯単元としての練習の取り組みに加え、個に応じた指導、また家庭学習での取り組みの不足が課題である。	→	- 対話の力を高めるための技術を学ばせ、慣れさせる。そのためには興味のある題材を取り入れ、授業展開の工夫を重ねていく。 - 書く力では要約などを取り入れ、要点を捉えて文章を書くことを定着させる。そのための技術も学ばせたい。 - 漢字の学習については今までに取り残してきた漢字の習得のために、きめ細かく個々の生徒のつまづきを把握し支援していく。また、復習などのテストも行っていきたい。また、文法などでは補習教室や復習の時間を確保して支援を行っていく。
- 説明的文章、文学的文章などの文章読解力を向上させていく。 - 文章を書く際に、自分の伝えたいことを明確にし、相手の立場や意見をふまえた上での意見を分かりやすく表現する技術を指導する。 - 様々な人の話をきちんと聞き取れるようにすると同時に、自分の意見を分かりやすく相手に伝える方法を指導する。 - 語彙、漢字の力、文法事項への理解を深める。	→	- 読解力を伸ばせるようにポイントになる文章の読み取り方の指導を行っていく。 - 条件作文を行い、「短い字数」「条件」などのなかで適確に表現する技術を指導していく。また、文法事項や漢字、語彙力も合わせて指導していきたい。 - スピーチや発表を授業に多く取り入れ、状況に応じた話し方の指導を行い生徒に他者の意見を伝えたり、聞いたりする機会を多く作っていく。また、そこからの自身の意見の変化を考えさせていく。 - 辞書の活用や表現方法の指導を細かく行っていく。

(2) 社会科

社会科の重点 社会的事象に興味関心を持たせ、 社会的思考の基礎を育てる。		思考・判断・表現	技能	知識・理解
	1年生	70.1	76.6	67.2
	2年生	85.4	78.9	68.3
	3年生	74.1	72.7	74.8

(平成30年 中野区学力にかかわる調査の結果より)

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	・地理・歴史に対する興味・関心の程度には差があるが、おおむね真剣に授業を受けようとする生徒が多い。 ・授業には真剣に取り組んでいるが、学習した内容が定着していない。 ・板書を丁寧に写し取ることができるが、話しを聞きながらメモをとる姿勢が定着していない。 ・提出物の回収率に課題がある。	・生徒の知的好奇心を揺さぶり、生徒が興味・関心をもって主体的に参加できる授業構成が必要である。 ・授業で学習した知識の定着に課題がある。 ・授業に真面目に取り組んでいるが、自分の意見を持ち、考えをまとめるたり、話し合って意見を述べることに苦手意識がある。 ・期限までに提出物を不備なく仕上げ、提出できるようにする。	・生徒の興味や関心が高まるような授業の導入や展開を工夫する。また、ICTを活用して、生徒がわかったと感じられる機会を増やす。 ・単元テストを活用し、基礎的な知識の定着を図る。 ・ワークシートを活用して自分の考えや意見をまとめたり、学び合い学習を通して発表する場を設定する。 ・単元ごとに提出物を回収し、少しずつの課題を確実に達成できるようにする。
	・社会的事象への興味や関心はあり、前向きに授業を受けようとする生徒が一定数いる一方で、基礎的な知識の定着が不十分な生徒も見られる。 ・ノートにメモを取りながら授業を受ける生徒も多くなってきている。 ・自分の意見を持つことができるものの、考えを深めようとする生徒が少ない。 ・提出物の提出率は高まっているものの、提出物への取り組みに課題がある生徒が見られる。	・知的好奇心が強く、集中力のある生徒と知的好奇心が不十分で集中力の弱い生徒が知識の軽重を問わずに参加できる授業構成とともに、着実に基礎的な知識の定着を図ることが必要である。 ・自分の考えをまとめ、発表する力の育成が課題である。また、発表する力とともに、聴く力をつけていく。 ・期限までに提出物を不備なくしあげ、提出できるようにする。	・導入や展開にあたって知的好奇心をゆさぶる教材をできるだけ用意する。 ・小テストや単元テストを行い、基礎的な知識の定着を図る。 ・ワークシートを活用して他者との意見交流の結果やその過程を発表する場を多く設定する。 ・目頃から復習として提出物への取り組みを促し、少しずつの課題を確実に達成できるようにする。優秀な作品は積極的に評価していく。
	・資料等の読み取りを苦手とする生徒が一定数いるものの、全体としては、社会的事象への関心は強く、前向きに授業を受けようとする生徒が多い。 ・ワークシートにメモを取りながら授業を受ける生徒も多くなってきている。 ・また関心や意欲が高く、提出物の提出率は非常に高い。また、授業内の活動にも積極的に参加している生徒が多い。	・知的好奇心が強く、集中力のある生徒と、知的好奇心が不十分で、集中力の弱い生徒が混在するので、知識の軽重を問わずに参加できる授業構成が必要である。 ・提出物の精度を高められるようにする。 ・他者の視点を盛り込んで、自身の考えを深めようとする態度を身に付けさせる。	・知的好奇心をゆさぶる教材を用意する。資料等の読み取りに関しては、既習事項と関連させながら考え方の指針を示していく。 ・提出物回収の指示・確認については、係を通じて徹底させるとともに、不十分な生徒には積極的に声をかけていく。また目頃から復習として提出物への取り組みを促す。 ・メモ欄や小集団の学び合い活動に積極的に取り組ませながら評価していく。 ・学び、感じたことを、自分の言葉で表現させる。

(3) 数学科

数学科の重点

・発達の段階に応じ、数学的活動を充実させ、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付け、数学的な思考力・表現力を育て、学ぶ意欲を高めさせる。

	数学的な考え方	技能	知識・理解
1年生	75.9	75.2	73.7
2年生	67.5	85.4	78.0
3年生	76.2	80.4	78.3

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	・観点別正答率で目標値と校内の平均正答率を比較すると、「見方・考え方」は7.4ポイント、「技能」は6.1ポイント、「知識・理解」は3.9ポイント上回る結果となった。しかし問題別に見ると、平面図形の問題で目標を5ポイント下回るものもある。	・「技能」は目標値を超える事ができたが、基礎・基本が定着していない生徒がいる。	・毎時間授業の最初に計算ドリルを行い、4回に1回の割合で小テストを実施する。小テストで半分の得点を取れなかった生徒には追試を実施する。
	・「関心・意欲」は66.5ポイントと、目標値よりも7.4ポイント高く、授業はほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいる。	また、定着が不十分な内容もある。	・習熟度別授業では基礎クラスの人数を10数名程度とし、質問をしやすい環境を作り、「関心・意欲」を高める。
2年	・「関心・意欲」が目標値を下回る生徒の多くが他の観点も目標値を下回っていて、その中でも「見方・考え方」が低い場合が多い。	・「見方・考え方」は目標値を超えることができたが、誤りを説明する説明に比べ、判断の理由や方法の説明をすることに苦手意識を持っている生徒が多い。	・定期試験には必ず方法や理由を問う問題を出題する。まずは試験で点数が取れるようにという意欲づけを行い、学習への関心・意欲を高めていく。授業では、正答をしめすだけに留まらず、未完成の説明文を例に挙げながら、全体追究でより良い説明を完成させるような授業を仕組む。
	・中野区の学力調査では、中野区の平均正答率よりも3.6ポイント高く、全国の平均正答率よりも8.5ポイント高い。	・「資料の散らばりと代表値」の結果から、計算のような形式的な操作だけでなく、資料から情報を読みとる力や、事象の性質や言葉の意味を正しく理解し活用する力を育てていく必要がある。	・授業前のドリルや小テストは継続し、基礎的・基本的な計算は身に付けさせる。また操作の仕方を暗記させるだけでなく、操作を身に付けた過程を説明できるようにすることで、新たな問題を考える際に活かせるようにする。自分の理解している方法で解決できる場面を与えることで「関心・意欲・態度」を高めていく。
3年	・問題の内容別正答率は「計算の復習」が92.1ポイントとなり、基本的な計算が身についている。	・「関心・意欲・態度」と「見方や考え方」の正答率を高める。	・「関数」や「確率」の授業では式や確率の求め方を学ぶ授業にならないようにし、作成した表やグラフ、求めた確率からどのようなことが分かるかを考えることに重点をおく。そのような活動を通して「見方や考え方」の向上を図る。
	・「資料の散らばりと代表値」は50.5ポイントで内容別正答率の中で最も低く、区の平均正答率より2.6ポイント低い。	・計算問題は得意で、意欲的に取り組む生徒が多いが、文字を使つての証明問題や図形の証明問題などの数学的な見方や考え方の観点の問題が苦手である。	・証明問題を指導するときは導入の段階でワークシートを作成し丁寧な授業を心がける。また、問題プリントを多く作って、問題演習を数多く行い、証明問題の苦手意識をなくし、解けるようにする。
	・観点別正答率は、全て区の平均を超えることができたが、「技能」に比べ、「関心・意欲・態度」や「見方や考え方」の正答率が低い。	・授業中は真面目にノートを取ってはいる。しかし、小テストでは、得点があまり取れない生徒も少々いる。	・毎時間授業の最初に計算ドリルを行い、4回に1回の割合で小テストを実施する。小テストで半分取れなかった生徒には再テストを実施する。それでも点が取れない生徒は補習をする。

(4) 理科

理科の重点 科学的思考の基礎を確立する。		思考・表現	技能	知識・理解
	1年生	67.2	70.8	70.8
	2年生	69.1	63.4	49.6
	3年生	62.9	64.3	73.4
	(平成30年 中野区学力にかかわる調査の結果より)			

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	・小学生での理科における実験・観察の既習事項にばらつきがある。 ・「生命」領域は目標値を下回る項目が多かった。 ・「物質」領域は目標値を上回る項目が多く、実験・観察を基にした理解ができています。	・実験・観察を行う際、小学校での既習事項の確認が必要である。 ・「生命」分野を中心に基礎学力の定着に課題がある。	・実験・観察を行う際、安全指導や方法の確認を個に応じてきめ細かく行う。 ・「生命」分野を中心に、ワークシートや授業の進め方を工夫し、基礎学力の定着が図れるようにする。
	・「知識・理解」以外の3項目は全国平均を上回っていた。 ・「地球」・「生命」領域は目標値を下回る項目が多かった。 ・「粒子」を中心とした「科学的思考」の項目で目標値を上回った項目が多かった。	・「地球」・「生命」領域を中心に基礎学力の定着に課題がある。 ・「エネルギー」領域では、生徒によって正答率にばらつきがある。	・「地球」・「生命」領域を中心に、ワークシートや授業の進め方を工夫し、基礎学力の定着が図れるようにする。 ・「エネルギー」領域を中心に、基礎学力の定着を図り、知識を活用した思考が必要な場面を設定する。
3年	・ガスバーナーの使い方を正しく理解できていない生徒が多かった。 ・「生命」領域は目標値を超えている生徒の割合が多く、定着が見られた。 ・「地球」領域では、前線の構造などイメージしにくい分野の定着に課題がある。	・実験において、実際に器具を使う人が限られ、全員が使い方や注意点を理解できていない。 ・データの処理や、考察などを進めていく能力に差が見られる。 ・目に見えない事物や現象をイメージさせて理解させることが難しい。	・可能な限り少人数での実験を行い、全員が実験に参加できる状況を整える。 ・個人個人の考察の時間を取るとともに、生徒間で協議できるような時間を確保する。 ・個人的に疑問に思う点を拾い上げ、生徒に質問を促し、個別で対処するとともに、理解が不足しがちな分野を分析した結果をフィードバックして、一斉授業を行う。 ・実験や観察において、安全指導を継続して行い、予想を立て、話し合いを行わせ、発表させるなどし、主体的な活動を促す。

(5) 音楽科

音楽科の重点

- ・しっかりと授業規律を確立し、授業で取り上げる教材の工夫を行い、音楽に対する興味・関心を高める。
- ・生徒同士の関わり合いを大切にしながら、自らを素直に表現できる生徒を育てる。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	・クラスによりばらつきはあるが、全体的に男子生徒が落ち着かない。 ・全体で指示を出しても話が聞けていないため、課題を進められない生徒が各クラス1～2名いる。 ・鑑賞の授業など、活発に発言をする生徒が決まっている。	・授業がスムーズに始められない。 ・音楽の知識や技能・意欲が低い生徒のレベルアップが必要。 ・視点を持って曲を聴かせることが大事。また、なるべく沢山の生徒が発言し、授業に参加する態度を養う必要がある。	・号令を正しくかけられるようにし、落ち着いた雰囲気をつくる。 ・生徒の理解・意欲を高められるよう、丁寧な指示に努める。 ・生徒同士が教え合い、高め合う雰囲気を作るために、ペア・グループ活動を取り入れる。 ・ワークを活用し、視点を持って聴かせる。また、書かせることにより自分の意見をまとめ、発言しやすいようにする。
	・クラスによりばらつきはあるが、全体的に男子生徒が落ち着かない。 ・生徒同士で音楽をより良いものにしようという雰囲気が不足。 ・鑑賞の授業など、活発に発言をする生徒が決まっている。	・音楽の知識や技能・意欲が低い生徒のレベルアップが必要。 ・視点を持って曲を聴かせることが大事。また、なるべく沢山の生徒が発言し、授業に参加する態度を養う必要がある。 ・男女間で意欲の差が激しい。	・生徒が興味・関心を持って取り組める指導や指示の工夫をはかる。挙手できるような明るい雰囲気作りを心がけたい。 ・技術の模範を見せ、生徒同士が教え合い、高め合う雰囲気を作るために、ペア・グループ活動を取り入れる。
	・ほとんどの生徒が良く歌い、話を聞き真面目に授業を受けている。 ・学年が上がり男声パートが2つに分かれたが、どちらのパートも意欲的に取り組むことができている。 ・意欲的ではあるが、発言などはあまり活発的ではない。	・個々の音楽の知識や技能・意欲にはあまりばらつきはないが、クラスの雰囲気によって、授業の進み具合が左右されることがある。 ・さらに技術の向上を促すために個々への課題を明確にすることが必要。	・生徒が興味・関心を持って取り組める指導や指示の工夫をはかる。挙手できるような明るい雰囲気作りを心がけたい。 ・技術の模範を見せ、生徒同士が教え合い、高め合う雰囲気を作るために、ペア・グループ活動を取り入れる。

(6) 美術科

美術科の重点

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	・美術の活動に意欲的に取り組む生徒が多い。 ・表現の基礎となる「描写する力」「配色を工夫する力」「構成を発想する力」を身に付けさせたい。 ・美術作品や他の生徒の作品について、興味を持って鑑賞する生徒が多い。しかし、造形用語を使って感じたことを表現することに慣れていない。 ・小学校図工での苦手意識を引きずる生徒が少なからずいる。	・自分から進んで取り組む態度を高め、授業への集中度を高めたい。 ・「描写する力」「色を工夫する力」「構成を発想する力」をはぐくんできたい。 ・作品作りに時間をたっぷり使う生徒、すぐに飽きてしまう生徒がいる。 ・楽しく鑑賞の活動ができるよう導入や教材を工夫する。視聴覚教材を活用し、発問内容を吟味し、鑑賞の能力を高めたい。 ・小学校図工との連続性について、小学校図工の先生との乗り入れ授業や研修の機会を活用・工夫したい。	・導入の工夫・美術室の整備・資料の提示、参考作品を示す、視聴覚機器の使用、板書の工夫、さらに、生徒の意欲を高める工夫をする。 ・生徒作品や参考作品を示し、制作中の友達の作品の良いところを発表し合う、感じたことを伝え合うなどの工夫をして「鑑賞する力」「発表する力」「認め合う力」を育てていくと同時に表現の幅を広げるよう促す。 ・小中連携授業では、授業のねらいを小・中の指導者が共有し、効果的な声かけや材料の提供を行う。
	・美術の活動に意欲的に取り組み、熱心に制作する生徒が多いが、主体的に取り組むことが苦手の生徒もいる。 ・一斉指導の後、個別指導に指導する。 ・鑑賞の授業で、書くことはできるが、まず、個人で感じたこと・気づいたことを専門用語を取り入れながら書けるようにし、お互いの意見を発表させたい。	・主体的に取り組む態度を高め、達成感を味わわせたい。 ・技法の伝達の場面では、プリントや ICT で説明し、さらに、図で示したり、実演したりして定着を促す。 ・グループ学習の慣れから、普段でも話し合いながら作業を行う生徒が多く、個別学習に変更し、話し合う場面では、グループにする予定。	・目標を細かく設定し、認め合う活動を取り入れ、主体的に取り組む態度を育成し、達成感が味わえるとよい。 ・提示する教材を工夫し、お互いの表現の工夫や違いを気づかせ、コミュニケーション能力を培い深い学びとする。 ・生徒の発言を促すような魅力的な鑑賞教材を準備し、鑑賞の能力を高める。 ・ワークシートを工夫し、他者との違いを認め、自分自身を大切にすることが大切、他人の作品や表現も大切にすることが大切であることを育てる。
	・美術の活動に楽しんで取り組む生徒が多い。 ・発想したり、構想を練ったりすることを苦手と感じる生徒が少なからずいる。 ・細かい作業に苦手意識をもち、表現が雑である生徒が少なからずいる。	・主体的に取り組む態度を高め、題材選びや視点の与え方を工夫する。 ・ただ、漠然とアイデアを考えるのではなく、表現するためにどう努力をして試行錯誤していくか、過程までを考慮し深く考えていく必要がある。 ・丁寧に作業することで得られることがあることを伝え、味わわせたい。	・発想・構想を広げ、深めて表現につなげていくよう声かけをする。 ・作品完成後の作品に込めた思いをしっかりと記入することで、発想・構想を通して表現できたことを実感させる。 ・参考作品を見比べるなど、丁寧な表現が、達成感につながることを理解させる。

(7) 保健体育科 (男子)

保健体育科の重点 (男子)

生涯にわたって運動に親しむことができるよう健康を保持増進するための知識を身につけさせ、新体力テストの結果を参考にしながら自己の体力向上を意識して北中サーキット運動を継続的に実施する。思考力・判断力・言語能力・コミュニケーション能力を身につけさせるため、授業の中にアクティブラーニングや習熟度別の授業、ICT を積極的に取り入れ向上できるようにする。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	・落ち着きがなく話を聞けない生徒が多い。学年全体の運動能力としてはやや低い。 ・体育委員、係を中心に自主的に活動する姿勢がまだ身に付いていない。 ・安全面やルール・マナー面を強化し、集団で活動するための基盤をしっかりと築く。	・全体の運動能力はやや低い。また、苦手としている生徒も多い。 ・体育委員、係がリーダーシップを発揮できない。 ・安全面やルール・マナーを意識し、集団で活動することが難しい。	・導入での準備運動で北中サーキットを導入する。また、授業の中にアクティブラーニングや習熟度別の授業を積極的に取り入れる。 ・体育委員、係がリーダーシップを発揮できるような場面を多く設定する。 ・学習カードや ICT の活用。
	・運動の種目によって好き嫌いが激しく、基礎的な運動から真剣に取り組む姿勢が必要である。 ・体育委員、係を中心に頑張っているが、周りの協力する姿勢が少ない。 ・思考・判断にける生徒が多いので、生徒個々が計画的に活動できる指導が必要である。	・運動能力の高い生徒と苦手な生徒の差がある。 ・リーダーシップを発揮する生徒が一部に限定されている。 ・考えながら運動をする習慣がない。	・導入での準備運動で北中サーキットを展開する。授業の中にアクティブラーニングや習熟度別の授業を積極的に取り入れる。 ・能力の高い生徒に苦手な生徒への助言など役割を与え、責任感を持たせリーダーシップを発揮させる。 ・学習カードや I C T 機器を利用して自分の運動の姿を客観的に見ることで課題を見つけ運動の仕方などを改善できるようにする。
	・明るい気質で運動好きな生徒が多くよく頑張れる。学年全体の運動能力も高いが、さらなる基礎体力の向上。 ・体育委員、係を中心に全体でよくまとまっている。 ・思考・判断の観点充実させ、計画的かつ自主的に活動出来る指導が必要である。	・全体の運動能力は高いが、苦手としている生徒もいる。 ・体育委員、係がリーダーシップを発揮しているが、メリハリがない時がある。 ・考えながら運動をする習慣がない。	・導入の準備運動で北中サーキットを導入する。また、授業の中にアクティブラーニングや習熟度別の授業を積極的に取り入れる。 ・メリハリをつけられるよう、指導内容の工夫をする。 ・学習カードや I C T 機器を利用して自分の運動の姿を客観的に見ることで課題を見つけ運動の仕方などを改善できるようにする。

(7) 保健体育科 (女子)

保健体育科の重点 (女子)

生涯にわたって運動に親しむことができるよう健康を保持増進するための知識を身につけさせ、新体力テストの結果を参考にしながら自己の体力向上を意識して北中サーキット運動を継続できるようにする。思考力・判断力・言語能力・コミュニケーション能力を身につけさせるため、授業の中にアクティブラーニングを積極的に取り入れ向上できるようにする。運動能力の二極化が見受けられるため、個別指導、段階的な指導、習熟度別指導を授業の中で適切に取り入れる。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	1、運動能力は全体的に高く、授業に取り組む姿勢や態度が良い生徒が多いが、静かでおとなしいような生徒が多いので活発に行動できると良い。	1、一斉指導で行う際に、困っていたり理解できていない生徒がいても、自らそれを発信できない傾向にある。	1、全体指導をしながら、困っている、理解しきれていない生徒がいないかこちらで把握し、いた場合には個別に声をかけて指導していく。
	2、小学校から中学校への移行で、専門的な知識やルール、種目の特性などを理解させ、中学校の体育に慣れさせる。	2、安全面やルール・マナー等の指導を強化し、集団で活動するための基盤を築く。	2、学習カードや種目のオリエンテーションを行い、安全面、ルール・マナー、種目の特性などを指導していく。また、毎授業も始めには本時の目標を提示し、終わりには確認やまとめを入れる。
2年	3、自ら自分やチームの課題を考えたり、見つけ出すことがまだできない生徒が多い。	3、支援の声掛けや、教え合い、学び合いができる授業展開に工夫する必要がある。	3、生徒一人一人の課題を把握し、教え合いや話し合いの機会が多く設けられるよう、ペア活動やアクティブラーニングを取り入れる。
	1、運動が苦手な生徒の運動能力が特に低いが、学年全体の運動能力は1年次に比べると上がっている。体力調査では、立ち幅跳び、ハンドボール投げ、長座体前屈などの記録が特に中野区の平均を下回っていた。	1、自己の能力を上げようとする意欲が低いので、授業展開の仕方や取り組みせ方にお工夫が必要である。単純な動きや基礎的な練習では飽きてしまう。	1、導入の準備運動で発力や巧緻性が高まるような準備運動、北中サーキットを導入し、習熟度別指導や個別指導を取り入れ、運動能力の向上を目指す。
3年	2、協力して楽しく運動することができるが、自ら課題を探し、取り組む能力や意欲が乏しい。自分から進んで取り組もうとすることが苦手で、リーダーとなる生徒も少ない。	2、自らの課題を把握できるような呼びかけや発問が必要となる。また、生徒同士で課題探し、指摘できる授業展開が必要である。	2、生徒一人一人の課題を把握し、教え合いや話し合いの機会が多く設けられるよう、ペア活動やアクティブラーニングを取り入れる。
	1、明るく、主体的に行おうとする生徒が多いが、意欲や技能の二極化が激しい。	1、一斉指導では下位層の生徒がついてこれられないため、個別指導やグループ指導など、生徒の実態に合わせた授業展開が必要となる。	1、習熟度別の授業展開や段階的な指導、教え合い、学び合いの場を作るため、ペア活動、グループ活動を取り入れる。
3年	2、体育委員、係を中心に全体でよくまとまっている。	2、体育委員、係がリーダーシップを発揮しているが、それ以外の生徒の自発的な行動が少ない。	2、役割を体育委員、係以外にも持たせ、主体性を養うような授業の組み立てを実践する。
	3、思考・判断の観点を充実させ、計画的に活動出来る指導が必要である。	3、授業の中で考えたり、選んで行動することができない生徒がいるので、主体的・対話的な深い学びが実践できる授業改善が必要である。	3、アクティブラーニングとして、グループ活動やペア活動を通して、話し合い、戦術を練る、教え合い、学び合いの時間を作る。また、実践→課題や改善策を全体で共通理解→実践 という流れで授業を組み立てる。

(8) 技術・家庭科（技術分野）

技術・家庭科（技術分野）の重点

- 科学的な理解から技術の見方・考え方に気付き、課題の解決に必要な知識及び技能を習得させる。
- 技術による問題解決を構想しようとする態度を育成する。
- 技術を評価し、適切な選択、管理・運用、応用の在り方について考える力や技術を工夫し創造しようとする態度を育成する。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン		
分析内容		指導上の課題		改善案
1年	・授業に集中して取り組むことができる。技術の見方・考え方を働かせる意識は低い。 ・実体験が乏しい生徒が多いが、技術に関する新しい知識に対し意欲的に学ぼうとする姿勢がある。 ・技術が社会の発展や環境の保全などにとって不可欠なものであることの理解が不足している。	・乏しい経験を補い、興味関心を持続させながら作業を進めていくために、生活上の問題をどのように解決させるか、課題の設定が鍵となる。 ・知識の定着率を上げるためには、実生活との関連を十分に意識して学習に取り組ませることが必要である。 ・授業で身に付けた知識や技術と家庭や社会における実践との結びつきが弱い。	→	・随時、まとめのテストをおこない、基礎・基本の定着を目指す。 ・基本形から設計を考え、作業の一部を選択式にする。 ・生徒が興味関心を継続できる教材研究を行い、プリントや画像等を利用したわかりやすい授業をおこなう。 ・課題の解決策を、一定の条件を踏まえて構想させることで、技術の見方・考え方を働かせて問題を見出し、解決する力を育成する。
	・エネルギー変換に関する技術に興味はあるが、学習内容を自分の生活と関連させ、エネルギーを効率よく利用しようとする姿勢には乏しい。 ・集中して作業に取り組むことができる。また、作業進度に大きな開きがなく、完成率が高い。 ・安全に作業することへの意識が低い。	・習得した知識や技術を活用し、課題解決のための学習活動を繰り返しておこなう必要がある。 ・実現したい装置の仕組みや機能を考え、それを設計・製作することをねらいとすること。 ・結果を的確に示すことのできる表現力を養う必要がある。	→	・製作後の学習を工夫することで、回路や機構を設計する思考力を育てていく。 ・教材教具を工夫し、ICT機器を積極的に活用し、導入でわかりやすく説明できる授業の工夫と、プリントやワークシートの作成を行う。 ・設計図などの図表を多く扱い、言葉で発表する機会を多くする。 ・安全に関する法令や標準化のための規格がある理由や、その意義を理解させる。
	・ものづくりなど実践的な活動には、高い意欲を持って取り組むことができるが、与えられた枠の中で満足し、創意工夫が苦手な生徒が多い。 ・作業進度に開きがあり、意欲はあるが時間内に完成できない生徒がいる。 ・到達目標に対する平均値が高く授業には意欲的に取り組むが、発言が少ない。	・技術が果たす役割を、実習を通して感じた事や理解したことに関連づけることで、より理解を深めていく。 ・生徒一人ひとりが長期的な目標を持ち、育成環境の調節方法を自分で工夫できるような個人課題をさせている。 ・実習等の結果を授業記録に整理し、考察するといった学習活動を充実させる必要がある。	→	・課題を工夫し、能力別に取り組めるように改善する。 ・個々の到達目標を明確にさせ、能力に合わせた支援をする。また、作業の効率化を図るとともに、補充学習を行う。 ・パソコンやプリントなどを活用したわかりやすい授業の実践と、毎時間の目標を明確にし、目的意識を持って取り組ませるようにする。 ・収量や品質を目標に管理計画をたてる。

(8) 技術・家庭科（家庭分野）

技術・家庭科（家庭分野）の重点 ○実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得。 ○よりよい生活の実現に向けて、これからの生活を展望し、生活を工夫し創造する資質・能力と態度を育成。 ○生活の課題と実践など、主体的に取り組む問題解決的な学習内容の充実。
--

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	・クラスによって落ち着きの無い生徒が数人いる。授業に対する姿勢に差があり、発言・意見が多く出るクラスと、反応に乏しいクラスがある。やっているように見えて、授業中は静かにしていて、読書や他教科の勉強をしている生徒もいる。	・課題に取り組んでいない生徒を発見し次第注意をしていく。忘れ物をしている生徒を見落としてしまうことがある。 ・発言する生徒ばかりが目立ってしまう。	・机間巡視をし、早めにアドバイスをする。 ・間違ってもいいという雰囲気づくりを心掛ける。 ・全員に答えるチャンスを与える。 ・担任や学年の先生に相談にのってもらい対応を考えていく。
2年	・クラスによって授業に対する姿勢に差があり、発言・意見が多く出るクラスと、反応に乏しいクラスがある。やっているように見えて、授業中は静かにしている。また、忘れ物をしても申告をせず、乗り切ってしまう生徒もいる。	・ミシン等を譲り合い、作業内容もお互いに教え合い進めることが出来ている。ミシンの取り扱い方など、教え合う姿が見られた。 ・細かい作業を一斉授業で理解させるのは難しく、個々に質問を受けていると、質問待ちの時間が長くなってしまう。	・進度の個人差については、補習等を開き、学校にて完成させる。（夏休みに5日間の補習日を設定し進度調節をする） ・アレンジのやり方など見本を示していく。 ・簡単な質問に対しては友人間で教え合う等の対応をする。
3年	・授業に対して前向きで、落ち着いて授業を受けることができている。作品への工夫も多く多くの生徒が取り組んでいる。また、特別に配慮を要する生徒も数人いるが、クラスの生徒にアドバイスを受けながら取り組んでいる。	・創意工夫のある作品を製作しようとする、授業時間内では完成させることが難しい。 ・図案の段階から進度に個人差が出てしまう。家に持ち帰らせると、本人が製作したのか分からない。	・残り時間を提示しながら作業を進める（夏休みに5日間の補習日を設定し、自分で判断し参加させている）。 ・最終提出日の授業時間内に終わらない生徒については、放課後補習をして学校にて完成させる。 ・学年、担任の先生に相談する。

(9) 英語科

英語科 コミュニケーションの基礎（聞くこと、話すこと、読むこと）を育成する。生徒が意欲的に取り組めるコミュニケーション的な授業のあり方を模索する。		外国語表現の能力	外国語理解の能力	知識・理解
	2年生	73.8	80.3	74.6
	3年生	86.0	88.8	84.6

(平成30年 中野区学力にかかわる調査の結果より)

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	・全体として元気があり、アクティビティなどには積極的に取り組む。 ・学力については、学力差がすでについている。活発に活動し、問題演習に積極的に取り組んでいる生徒がいる反面、基礎基本が身に付いていない生徒もいる。 ・家庭学習については、習慣化や効率向上に個人差が見られ、塾などで学習補充を行う生徒が多い。	・英語嫌いの生徒を作らないような授業展開をし、積極的に発音をさせる。 ・コミュニケーションへの関心を高め、話すことに抵抗を持たせない。 ・学力の差を縮める。 ・家庭学習を定着させる	・英語での質問、指示を継続し、自然と理解をしていく環境を作る。 ・音読（暗唱）や、単語、基本文の暗記などわかりやすい目標を設定し、できるまで繰り返し取り組ませる。 ・会話練習など学び合いの場面を多く設ける。 ・継続して小テストを行い、語彙力をつけさせる。 ・4技能をバランスよく身に付けさせるために、聞くトレーニングを多く持ち、まずはリスニング力の向上を図る。
	・全体として真面目に学習し、アクティビティ等にも積極的にとりくむことができています。 ・個々での発言は積極的に行われているが、全体の前で発表するような機会では挙手も少なく、正解がわかっているにもかかわらず発言しない生徒が多い。	・基礎基本の定着をはかり学力の底上げを図る。 ・積極的に発話をさせる。ペアでの発話を全体に広げる工夫をする。 ・英語が苦手な子でも成功体験を積ませることにより、「やればできる」という気持ちを抱かせる。	・アクティビティを多く取り入れ、多角的な導入、学習の定着を行う。 ・ペアワークを中心とした授業展開だけでなく、より多数への発表形式を取り入れる。 ・定期テストだけでなく、章ごとに確認テストを行い、成功体験を積ませる。また、英検などを積極的に受けさせ学習のゴールを明確にする。 ・即興で発話ができるアクティビティを導入し、発話をするに対する抵抗感を取り除く。
	・全体として真面目に授業に取り組み、アクティビティやペア活動にも互いに協力し、積極的に取り組んでいる。 ・基本的な文型や文法事項は、概ね理解できている。それらを用いて表現することには課題が残る生徒がいる。	・発話の機会を多くもち、基本的な文型や文法事項を用いて表現する運用能力の向上を図る。 ・基礎・基本を定着させ、学力の底上げをさらに図る。 ・演習問題に取り組み、より応用力を身につける。	・ペアでの会話や表現活動などで、自分の知識を自分の言葉として使う活動を行う。また、ほかも生徒と学びあうような場面を多く設定する。 ・文字と音声を意識した発音指導を行う。また、教材や導入を工夫する。 ・基礎・基本の定着を図るためのスモールステップを踏んだ段階的・継続的な指導を行う。（単語テストやスプリングコンテストなど） ・既習事項の復習の時間を計画的に設けたり、演習問題に取り組む。